



2017年5月4日(木)~6日(土) 残雪の唐松岳 二日目：八方尾根から唐松岳頂上山荘

Report by Kumamoto

二日目 5月 5日（金）は子供の日で、イヨイヨ本番の八方尾根から唐松岳へ雪山登山だ。

昨夜は早めに寝て睡眠を十分に取ったため、朝はスッキリと目が覚め、雄さんは4時前に温泉へ、続いて熊本が追いかけて湯に浸かり、周辺の散策に出かけた。



朝陽を浴びて赤く輝く五龍岳と八方尾根（5:00）



雄さんは長野オリンピックのジャンプ台へ





朝食は7時から和洋バイキング。タップリ腹に詰め込んでおこう。



登山に不要な荷物（着換え等）を宿に預け、宿の玄関前で記念の写真を撮り7:50に出発する。



旅館からゴンドラ乗り場まで約10分程だが、途中には満開の桜や春の花が一杯咲いている。



登山客は登山計画書の提出が義務付けられており、計画書に掛かれた入山者的人数分しか、チケットを発券してくれない。計画書には各人の氏名・住所だけでなく、夫々の緊急連絡先および電話番号の記入があり、9名分を書き込むのに相当時間を要した。(8:10)

標高 770m



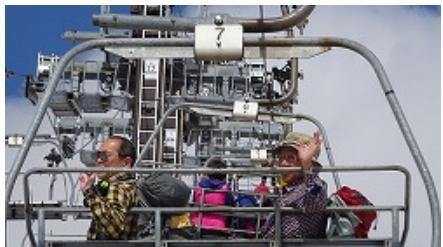
ゴンドラと二つのリフトを乗り継いで八方池山荘までの往復通し券(¥2900)を購入しゴンドラ乗り場へ



ゴンドラ(アダム)で標高1400mの兎平へ630mの標高を一気に上がる。



兎平からはアルペンクワッドリフトで標高 1680m の黒菱平へ



黒菱平から最後のリフトのグラートクワッドで八方池山荘 (1820m) に 8:40 到着した。



8:45 八方池山荘まで上がるところは春スキーゲレンデの最上部で、八方尾根の向こうに遠見尾根、更にその先に鹿島槍ヶ岳の先端が飛び出していた。



八方池山荘の前で登山準備をして、8:55 出発する



最初はガレ場だが、直ぐに木段になった。



9:20 木段を登りきると、そこは八方山ケルン（1974m：石神井ケルン）で、最初の休憩を取る



八方ケルンから見た遠見尾根、五龍岳、八方尾根



唐松岳から不帰のキレット、白馬三山（鎧が岳、杓子岳、白馬岳）



長野県最北及び新潟の峰々



9:45 八方ケルンに到着 (2035m)。標高 2000m を超え、二回目の休憩を取る。(合成)





不帰のキレットから白馬三山の尾根。ナス紺の空が目に沁み眩しい。



八方ケルンから暫く登ると第三ケルンが見え、その手前に八方池へ下る木段がある。降り切ったところが八方池だが、今は雪原になっている。(10:00)



八方池にて三回目の休憩にする。



八方池にて白馬三山をバックに記念写真を撮る (2060m 10:18)



昨年9月に登った時に移した
八方池と白馬三山



八方池を過ぎ、暫く登ったところで、いよいよ雪原の急登に備えアイゼンを装着する。

ここから丸山ケルン (2430m) までは、標高差約 400m あり、正念場だ！



急登に取り付く。12本爪アイゼンでシッカリ足を確保し、ピッケル、ストックでバランスを取りながら、ユックリ小幅を守りながら慎重に一步一歩登る。



丸山ケルンまでの標高差 400m を詰めるには、急登りのピークを3つ程超えないと到達しない。





12:12 ヤット 2430m の丸山ケルンに到着し、昼食休憩。八方池山荘から登り始め 3 時間 20 分掛かった



昼食を取り、唐松岳頂上山荘（2620m）を目指す。小屋まで、約標高差 200m を詰めなければならない。

唐松岳は尾根の裏側にあり、まだ姿を現さない。(13:35)

突然、谷側からドスーンと大きな音が響き、続いてゴロゴロドーンと鳴り響いた。

近くの急斜面で雪崩が発生していた。 右側、左側の谷からも鳴り続き、雪崩の連続だ！



ここまで登ると五龍岳と白岳が目の前に迫る

白馬鑓、杓子、白馬岳に雲が消え全容を現した。



このピークを越えれば山荘だ。
13:50 既に5時間弱登り、
熊本の足は悲鳴を上げ、太もも内側
の大腿四頭筋がパンパンに張って
吊る寸前だ。



ピークを越えると唐松岳山頂が現
れた。(13:55)



眼下に唐津岳頂上山荘 (2620m)
が見えた。



唐松岳頂上山荘に 14:10 到着。
八方池山荘から 5 時間 15 分掛か
った。

頂上山荘にチェックイン後、荷物を部屋に置いて、唐松岳山頂にトライすることにした。
「山頂登頂～山荘宿泊～翌日下山」は次回の報告へ